春翔 佐賀海3連勝

紙相撲新聞
第152回本場所
初日～三日目号
編集・発行
日本紙相撲協会

新大関佐賀海も好調3連勝
新関脇千代鈴は若剣に苦杯

【第百五十二回本場所初日～三日目】

第１５２回紙相撲本場所は前開催日より三週間が過ぎた７月１９日、雨予報とは一変した汗ばむほどの晴天のもと、都内でのコロナ感染の拡大が懸念されるなか幕内と十両の初日から三日目までの取り組みが練馬国技館にて取り行われた。

先場所の開催が途中延期された影響で今年最後となる本場所が幕を開けた。先場所は両横綱が途中休場となり寂しい場所となったが、その穴を埋めるが如く大関が全勝優勝を決め、その春ノ翔の綱獲りにベテランの域に入りながらも大関に昇進した佐賀ノ海、新入幕の場所で準優勝の活躍を見せ一気に関脇に昇進の『令和の怪物』千代鈴をはじめ関脇、小結が総入れ替えとなりフレッシュな番付となって迎えた今場所の初日。

その初日から三連勝を決め、好スタートを切ったのは春ノ翔、佐賀ノ海、平幕の源氏丸、白閃光、伊達の富士、と序盤の三日目までを取り終えたばかりだが全勝力士が５名となり早くも波乱の様相を呈する今場所。

なかでも先場所優勝の大関春ノ翔は相変わらず抜群の安定感で烏帽子岳、朱雀湖、四季嶋の台頭する若手を寄せ付けず、連日圧巻の相撲内容ですんなり三連勝とし好スタート、先々場所から続く連勝を１６に伸ばし、歴代１０位に並んだ。先場所から続く絶好調さは群を抜いており、今場所も全勝優勝しそうな勢いで賜杯の最有力候補となりそうだ。

ベテランの域に入ったここ数場所の目を見張る活躍で大関に昇進した佐賀ノ海。こちらも昨今の好調さを持続させて、初日の支那虎、二日目の若剣の桐壺部屋の力士を左差しから仕留めると、三日目の朱雀湖には押し倒しに降し、右だけに頼らず左右からの攻めで相撲内容にも厚み深みが加わった様だ。

先場所は体調不良から途中休場した源氏丸、初日の磯昇、二日目の剛勇山の中堅どころを右からの押し、左からの差しで降すと、三日目の生駒山戦では三役経験の実力を見せて相手を寄せ付けず３連勝を決めた。今場所は体調も良さそうで先場所のツケを返す活躍が期待される。

先場所は三役への復帰が期待された白閃光、しかし３勝止まりで番付を中盤まで下げた今場所。初日の虎風に三日目の虎剛力と分の良い相手には難なく左差しから寄り切りに降し、二日目の新鋭綱嵐には得意の右から押し倒しに沈め好調事を思わせる相撲内容で好スタートを切った。このまま白星を重ね三役復帰の足がかりとする事ができるか？

↑今場所の綱取りに賭ける春ノ翔は初日に実力者烏帽子岳と対戦。好取組が期待されたが、烏帽子に全く出足を許さず、一気に寄り切った。続く二日目三日目も危なげなく勝ち、連勝を１６に伸ばした。

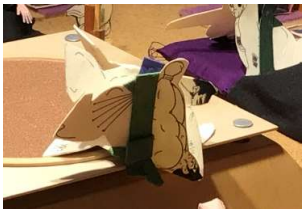
↓新大関佐賀海は左差しの寄りで２勝。地位が上がって相撲の巾も広がったようだ。

春ノ翔○（寄り切り）●朱雀湖

朱雀湖●（押し倒し）○佐賀海

春ノ翔○（寄り切り）●四季嶋

虎剛力●（寄り切り）○白閃光



源氏丸○（押し倒し）●生駒山

第152回本場所星取表

●●○	美空富士	横綱	若ノ嶋	○○●
○○○	春ノ翔	大関	魁電	●●●
○○○	佐賀ノ海			
●○○	千代鈴	関脇	若剣	●●○
○○●	大神楽	小結	四季嶋	●●●
○●○	出羽翼	前1	烏帽子岳	●○○
●●●	朱雀湖	前2	支那虎	●●●
○●○	夢力	前3	月山	●○●
○●○	英筏	前4	玄武岩	●○●
○●○	剛勇山	前5	剣竜	○○●
○○●	若巨	前6	源氏丸	○○○
○○●	磯昇	前7	虎風	●●●
○○○	白閃光	前8	虎剛力	●●●
●●○	富士ノ花	前9	綱嵐	○●○
●●●	照の王	前10	生駒山	●○●
●○○	超刃	前11	伊達富士	○○○
●●●	寶蔵	前12	龍不動	●●○
●●○	鳥海浪	前13	若柱	●○○
●○○	太刀鳳	前14	角武蔵	●○○
○●○	日向藤	前15		

○○○	春雷	十1	初戸	●●●
○○○	大江錦	十2	水晶嶽	●●○
●○●	鬼ヶ嶽	十3	喜乃郷	○●●
○○○	鹿富士	十4	葵盛	●●●
●●○	若佑	十5	櫻吹雪	●●●
○○○	桑ノ城	十6	麒麟王	●○○
○○●	黒雲海	十7	山辺	○○●
●●○	虎ノ國	十8	桃乃洲	●●○
●○●	琴乃王	十9	雪若丸	○○○
○●○	西安	十10	西勢ノ里	○●●
●○●	三鷹	十11	天我	●●●
○○○	電幕	十12	夢香山	●●○
●○●	宇治家	十13	柏陵山	○○●
○●●	磯目ノ丸	十14	若雲山	○●○